

第10回「機関リポジトリの次の一手を考える」シリーズ勉強会
令和7年2月28日（金）15:00～16:00

英国REF2029 Open Access Policyを読む

神戸大学附属図書館情報管理課電子情報グループ
国立大学図書館協会資料委員会作業部会委員
花崎佳代子

経緯

英国オープンアクセス政策対応等調査報告会のフォローアップ

- 英国の助成機関OAポリシー対応に関する英国視察（2024.2）の報告
- 当時の状況
 - UKRIのOAポリシーで雑誌論文の即時OA義務化（出版日2022.1ー）
 - REF2021のOAポリシーで雑誌論文のOA義務化（出版日2016.4ー）
 - REF2029のOAポリシーが策定検討中

2024.12に公開されたREF2029のOAポリシーを紹介

REFとは

英国の資金提供：デュアルサポートシステム

| プロジェクトごと | 機関ごと (QR funding) |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">分野ごとのリサーチカウンシルを通じてUKRIに申請、専門家のレビューにより審査リサーチカウンシルを通じて助成 | <ul style="list-style-type: none">REF (Research Excellence Framework)で、研究のアウトプット (60%) ・インパクト (25%) ・環境 (15%) を評価Research Englandなど地域ごとの4つの配分機関から助成 |

<https://www.ukri.org/publications/explainer-dual-support-funding-for-uk-research-and-innovation/explainer-dual-support-funding-for-research-and-innovation/>
<https://2021.ref.ac.uk/guidance-on-results/guidance-on-ref-2021-results/index.html>

ポリシーの影響範囲
はUKRI < REF

2つのポリシーの整合
性が重要

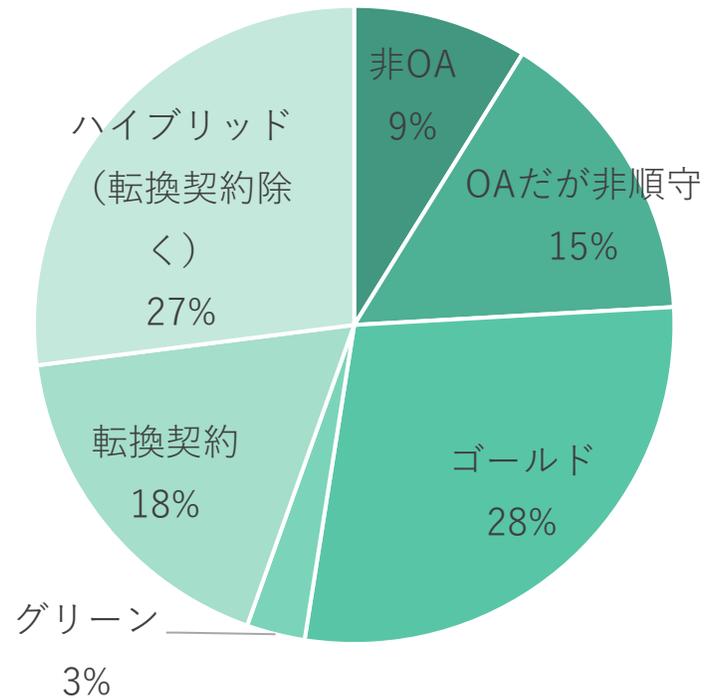
UKRI・REFのOAポリシー（1）

| | UKRI | REF |
|--------|--|---|
| 対象 | UKRIのリーサーチカウンシルから助成を受けた <ul style="list-style-type: none">査読済み論文（レビュー・会議発表論文含む）モノグラフや本の章 | REFにアウトプットの評価対象として提出する、ISSNのある <ul style="list-style-type: none">雑誌論文・会議発表論文 |
| 義務の度合い | 罰則はなく、報告やモニタリングも検討過程 | オープンアクセスポリシーを順守していないとREFに提出できない（例外あり） |
| 規模感 | UKRI助成論文（2023 ※） 25,193件 （注：データ収集時期の問題により 約6割に当たる数値） | REF2021提出研究成果 185,594件 うちOA方針対象 102,674件 |
| 資金援助 | 各機関に、APC他OAポリシー順守のためのブロックグラントを提供 | なし |

※<https://www.coalition-s.org/wp-content/uploads/2024/02/PlanS-2023-annual-review.pdf>
<https://results2021.ref.ac.uk/outputs#>

UKRI・REFのOAポリシー（2）

UKRI

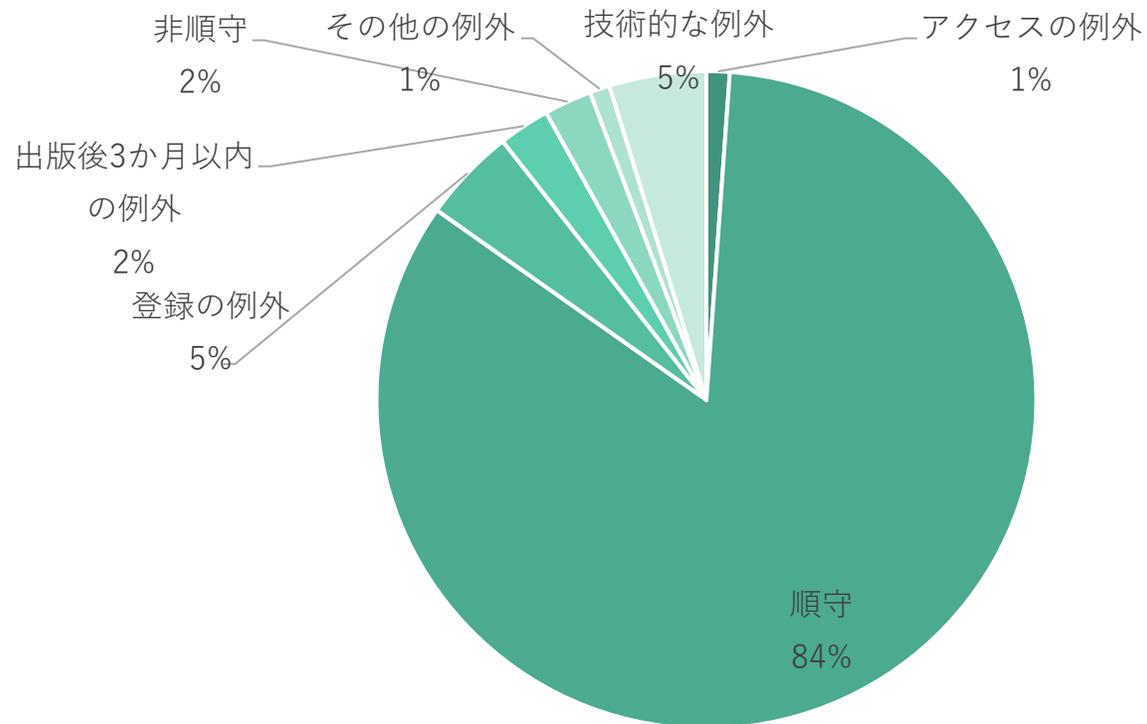


| OA状況 | 論文数 |
|----------------|---------------|
| 非OA | 2,221 |
| OAだが非順守 | 3,852 |
| ゴールド | 7,148 |
| グリーン | 743 |
| 転換契約 | 4,421 |
| ハイブリッド（転換契約除く） | 6,808 |
| 合計 | 25,193 |

注：データ収集時期の問題により約6割に当たる数値

UKRI・REFのOAポリシー（3）

REF2021



OA状況

論文数

アクセスの例外

1,165

順守

85,891

登録の例外

4,748

出版後3か月以内の例外

2,580

非順守

2,401

その他の例外

1,010

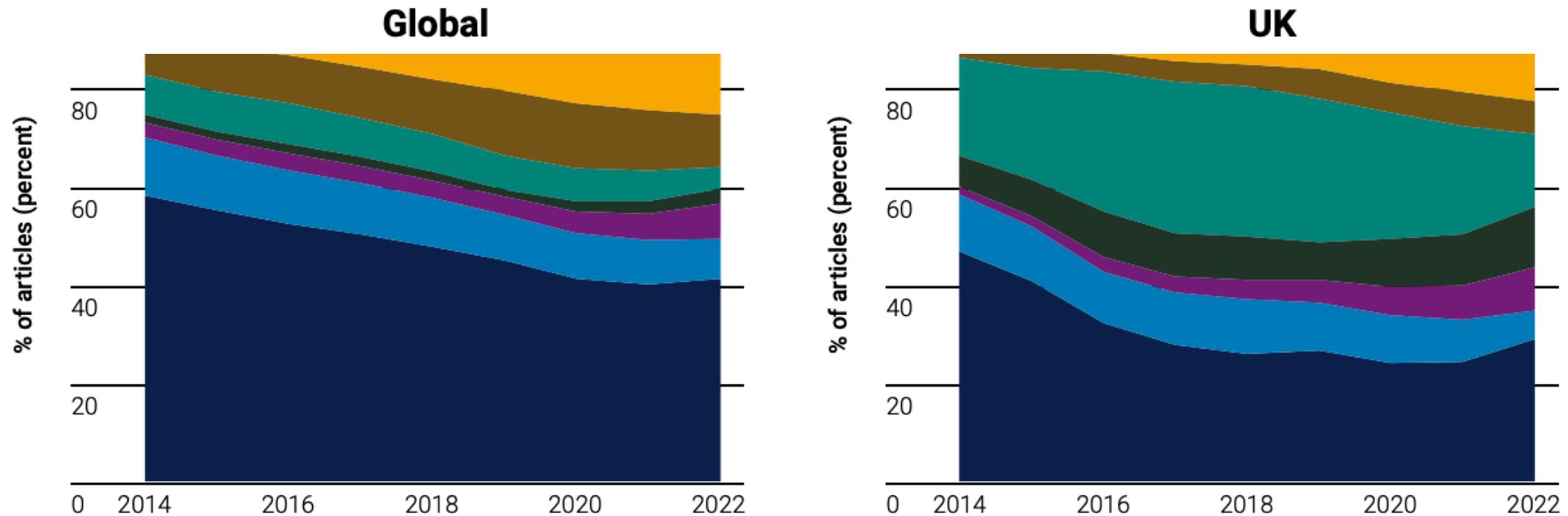
技術的な例外

4,879

102,674

英国のOAの状況

OA status: Closed (only) Gold (only) Green (only) Hybrid (only)
 Bronze Gold and Green (estimated) Hybrid and Green (estimated)



Brayman, K., Devenney, A., Dobson, H., Marques, M., & Vernon, A. (2024). A review of transitional agreements in the UK. Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.10787392> Creative Commons Attribution Share Alike 4.0 International

P 48 Figure 14より抜粋。2015-2022出版論文についてUnpaywallでOA状況を識別したもの。（“Data source: Dimensions. Parameters: All (global or UK) articles. All titles for all publishers.”）

REF2029OAポリシー策定まで

2021.8 [UKRI Open Access Review: consultation analysis](#)

UKRIとREFのOA
方針整合性につ
いても調査

2024.3-6 [Research Excellence Framework 2029 open access
consultation](#)

2024.8 [Early decisions on REF 2029 Open Access Policy](#)

- 適用開始日を
2026.1～に
- 長編出版物は
今回対象外

2024.12 [Open Access policy](#) ・ [REF 2029 Open access consultation
and engagement summary](#)

REF2029のOAポリシー

| | | |
|--------------|-------------------------|---|
| 対象 | 3.2.1 3.2.8 7.0.2 | <ul style="list-style-type: none">ISSNのある雑誌論文もしくは会議成果物（2021.1-2028.12出版）うち、2021.1－2025.12出版分にはREF2021のポリシー適用2026.1-2028.12出版分にはREF2029のポリシー適用 |
| OA出版プラットフォーム | 3.2.7 | <ul style="list-style-type: none">F1000Research、Wellcome Open Research、eLifeなどのOA出版プラットフォームの場合はOA要件を満たす |
| 適用日 | 7.0.1 | <ul style="list-style-type: none">2026.1.1－ |
| 公開・登録の要件 | 7.2 | <ul style="list-style-type: none">OA出版（ゴールド、ダイヤモンド、プラチナ）の場合OAポリシー順守エンバーゴがあればAAMかVoRをリポジトリ等に出版後3ヶ月以内に登録 |
| 発見の要件 | 7.3 | <ul style="list-style-type: none">出版社サイトやリポジトリにメタデータを登録し発見可能とする |
| アクセスの要件 | 7.4 | <ul style="list-style-type: none">エンバーゴ後に公開 |
| ライセンス | 7.5 | <ul style="list-style-type: none">CC BY(NCやNDも可) |
| 許容するエンバーゴ | 7.6 | <ul style="list-style-type: none">自然科学分野6ヶ月、人文社会科学分野12ヶ月 |
| 非順守許容率 | 7.8 | <ul style="list-style-type: none">5% |

REF2029OAポリシーまでの変遷

| | <u>REF2021</u> | <u>Consultation</u> | <u>REF2029</u> |
|-----------|---|---------------------------------------|---------------------------------------|
| OAの方法 | 1. OA出版 2. グリーンOA | 1. OA出版 2. グリーンOA | 1. OA出版 2. グリーンOA |
| リポジトリ登録 | (2の場合) 登録：受理後3ヶ月以内 公開： • 登録後1ヶ月以内 • エンバーゴがあれば終了後1ヶ月以内 | (2の場合) 登録：出版後1ヶ月以内 • エンバーゴ終了後公開 | (2の場合) 登録：出版後3ヶ月以内 • エンバーゴ終了後公開 |
| 許容するエンバーゴ | 1 2ヶ月 | 6ヶ月 | 6ヶ月 |
| 自然科学 | 2 4ヶ月 | 1 2ヶ月 | 1 2ヶ月 |
| 人文社会科学 | | | |
| ライセンス | CC-BY (NCやNDも可) | CC-BY (NDも可) | CC-BY (NCやNDも可) |
| 非順守許容率 | 5% | 5% | 5% |

REF20290Aポリシーまでの変遷

| 例外 | REF2021 | Consultation | REF2029 |
|------|---|--|--|
| 登録 | <ul style="list-style-type: none"> リポジトリ確保できず 著者最終稿入手の遅延 REF提出時の著者雇用身分 リポジトリ登録が違法 セキュリティへの懸念 | <ul style="list-style-type: none"> 第三者の著作物のライセンス不可 対象外の研究者を著者に含む 機関の管理不可の事由 雇用終了後の研究成果 リポジトリ登録が違法 最適な出版先がエンバーゴ指定 | <ul style="list-style-type: none"> リポジトリ登録が違法 最適な出版先がリポジトリ登録を不許可 著者最終稿入手の遅延 |
| アクセス | <ul style="list-style-type: none"> 第三者の著作物のライセンス不可 最適な出版先がエンバーゴ指定 最適な出版先がリポジトリ公開を不許可 | <p>青字：なくなった例外 オレンジ字：なくそうとしたが保持された例外</p> <p>※花崎の理解により色付け</p> | <ul style="list-style-type: none"> 最適な出版先がエンバーゴ指定 第三者の著作物のライセンス不可 |
| 技術的 | <ul style="list-style-type: none"> 受理時は研究者が別機関 リポジトリシステム障害 外部サービスプロバイダーの影響 | | <ul style="list-style-type: none"> 雇用終了後の研究成果 著者が”volume measure”対象外 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> 機関の管理不可の事由 リポジトリ登録が受理後3ヶ月でなく出版後3ヶ月 | | <ul style="list-style-type: none"> 機関の管理不可の事由 |

UKRI Open Access Review: consultation analysis

概要

- 68の質問（うちREFとの整合性について8問）
- 350件の回答（大学、学会、研究者、出版社、大学図書館、関係団体等から回答）

UKRIとREFの OAポリシー整合 性や即時グリー ンOAについて

- 大学側
 - 整合性は望むが、UKRIより対処範囲の広いREFで即時OA義務化は困難
 - APC増加や財源確保困難の懸念
 - 即時グリーンOA対応にはインフラ整備、スタッフ増強等が必要
 - REFでAPC助成なく即時OAが義務化されると投稿先選択の自由が阻害される
→ 様々なルート、例外の許容が必要
- 出版社・学会
 - 即時OA義務化による購読中止 → 質保証ができなくなる懸念
 - 具体的に12ヶ月のエンバーゴを希望する意見も

REF 2029 Open access consultation and engagement summary

概要

- 19の質問
- 279件の回答（大学、学会、関係団体等から回答）
- Consultationの前後にもインタビューやイベントを行い、ステークホルダーから意見収集（大学図書館員、大学関係者、出版社、学会、cOAlitionSなど）

REF2021以降の研究環境の変化

- ダイヤモンドOAを含むOAの選択肢の増加
 - 特に自然科学分野では助成機関や政府によるOA支援促進、出版社の対応普及
 - 人文社会科学分野ではOA支援の資金不足でREF提出研究成果が限定される懸念
 - 転換契約とJiscの支援
 - 権利保持戦略の導入が進んだのはよいことだが、小規模機関には導入・普及が困難
 - 長編出版物のOA化には出版社が非同意
-

REF 2029 Open access consultation and engagement summary

登録の要件

- 起点を受理日／出版日をどちらにするかは意見がわかれた
- 出版日が起点だと研究者にとってのトリガーとならず対応が遅くなることへの懸念
- 登録要件による事務負担増加への指摘
- 出版後1ヶ月までの登録は期間が短すぎるとの指摘
- 出版日の定義の明確化の要求

ライセンス

(UKRIとの
整合性)

- AIやテキスト・データマイニングが普及する中不適切な研究成果使用への懸念
- 権利保持戦略普及が進んでいるが小規模機関で導入困難（リソース不足、法の専門家不在）
- 芸術・人文学分野では、NC除外により芸術作品が不適切に商用利用される懸念
- 医学分野では、OAジャーナルでNCが多いためREF提出に影響が出る指摘
- 変更による混乱、特に出版社がOAポリシーに対応するのかの懸念

REF 2029 Open access consultation and engagement summary

代替のプラットフォーム

- 査読プロセス整備が不十分な場合を想定した、**研究の質への懸念**
- **分野により適否が異なる**（普及度が異なるため）
- 研究の質や、OAポリシー順守対応のための事務作業増大への懸念
- 許容されるプラットフォーム情報や評価基準などの情報公開と更新を期待

許容するエンバーゴの変更

- 出版社がポリシーに合わせエンバーゴを変更するかの懸念
- **変更する場合、小規模出版社や学会への影響への懸念**
- **大学側でのモニタリング負担増、権利保持戦略導入へリソース不足の懸念**
- 特に人文社会科学分野でREFへ提出できなくなる研究成果増加の懸念
- **アクセシビリティやインパクトの増加を理由に一部肯定意見も**

REF 2029 Open access consultation and engagement summary

適用開始日
(2025.1-)

- 準備時間不足の懸念（大学の権利保持戦略や内部プロセス、CRISの機能、出版社の著作権ポリシー、権利保持戦略など）
- 1年の延期もしくは次期REFまでの延期を希望

非順守許容率

- 小規模の提出の場合は不利
 - REF2021より要件が厳しい中、大学の対応負担を減らすため許容率引き上げを希望
 - 監査の条件を含め、詳細の明確化を求める
-

REF 2029 Open access consultation and engagement summary

例外

- 規定以上のエンバーゴを認めるかが争点。出版社や研究者のOA推進のインセンティブが高まらないという声も。
 - 用語の定義（例：「最適な出版先」）や順守有無判断方法の明確化を希望
 - 他の例外を追加希望（例：研究成果に含む著作物のライセンスの問題、著者最終稿の入手が遅れた）
-

ポリシー公開後

- 説明会（2025.1.28）の開催 [動画](#) [スライド](#)
- 今後FAQが公開される

日本の即時OAに向けて

REF2029OAポリシーの主な論点

参考にできそうなこと

ライセンス適用の重要性・大変さ

- 研究者の方向けに、ライセンスに関するサポートが必要では

出版社・学会への支援 =
投稿の自由の保障でもある

- 特に国内出版社や学会の対応支援があるとよい

助成機関ごとの整合性は重要

- 助成機関同士でポリシー要件の整合性があると対応しやすい

エンバーゴの許容有無

- REFでのグリーンOA対応には引き続き注目しつつ、日本でも各機関でエンバーゴ後すぐのリポジトリ公開を保障する仕組み整備ができるとよい

権利保持戦略が鍵だが導入は大変

- 国内でも権利保持戦略の検討・導入支援が進むと（即時）グリーンOAが進みやすい

APCの財源や総額増加

- APC総額の推移・動向を把握しつつ、「即時OA = ゴールドOA」ではないことの周知が必要ではないか

様々なOAルートへの許容が重要

- 国際動向調査を行いOA出版プラットフォームも含め様々なOAルートへの許容が必要